

様式第6号(第2条関係)

委員会等の会議録

1	会議名	第5回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和6年3月13日(水) 9時30分から11時30分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	9名	
出席者			
6	委員氏名	浦崎 慎太郎、大石 常也、大野 甲子彦、大森 安洋、 凝地 世矢、後藤 理恵、佐伯 謙、澤近 圭亮、高橋 翔、 田中 純樹、田中 翔、永元 将博、濱 哲也、浜辺 隆博、 濱本 涼、深堀 毅、前田 眞、向田 和広、森 裕之、 山本 正文、李 銀姫、若松 隆仁	
7	担当所属 担当職員 (職・氏名)	所属名	水産課海業推進室
			室長 浜辺 隆博 室長補佐 清水 貴光 係長 廣瀬 琢磨、清水 陽介 主査 吉原 勇作 主事 本田 美紀、賀屋 啓太、中村 一喜
8	その他の 出席職員 (職・氏名)	所属名	
			町長 清水 雅文 副町長 木原 荘二
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
清水室長補佐	<p>定刻になりましたので、ただ今から第5回愛南町海業推進会議を開会します。開会に当たりまして、愛南町長清水雅文から御挨拶申し上げます。</p>
清水町長	<p>(開会挨拶)</p>
清水室長補佐	<p>それでは、次第に沿って進めます。ここから先は、懇話会の規則に従い、座長を水産課長の濱に引き継ぎます。</p>
濱座長	<p>本日は、年度末のお忙しいところ御出席いただき、誠にありがとうございます。本日は愛南町海業グランドデザイン案について議論します。まず、佐伯委員から運営委員会の概要について御報告いただきます。よろしく申し上げます。</p>
佐伯委員	<p>前回の推進会議から3回運営委員会を開催しましたので、その内容について報告します。</p> <p>まず、第6回運営委員会では、第4回海業推進会議で議論したグランドデザインのイメージの中身をブラッシュアップするため討議を行いました。その中で、グランドデザインが完成した際にPRの材料として動画撮影をした方が良いという意見が出ました。また、広報についてはホームページ、SNS、プレスリリース、南海放送ラジオの出演等様々なツールを使用していこうという意見も出ました。</p> <p>次に、グランドデザインのスローガンについて議論した結果、運営委員を中心に様々な案を出し、次回の運営委員会に持ち寄ることになりました。</p> <p>次に、グランドデザインの名称について議論しました。ここでは「グランドデザイン」という言葉の定義は、全体構想、大規模事業であり壮大なイメージを与えている、といった意見があり、内容に合わせた新しい名称を付ける必要性について議論が行われました。最終的に加除式で更新していくこと、広く捉えることでより様々な取組を取り込むものとしていくこととなり、名称としてはグランドデザインのままでいくと結論付けました。</p> <p>第7回運営委員会では、持ち寄ったグランドデザインのスローガンとエッセイについて発表しました。その中で、「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台を実現しま</p>

発言者	発言内容
	<p>す！！」という案が選ばれました。</p> <p>次に、どのような舞台にするかに関して多くの提案が出ていたため、各プロジェクトについても話し合いました。具体的には、「UMIDASプロジェクト」、「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」、「ホテルAINANプロジェクト」です。また、この会議でも動画企画についての話し合いを行い、海業を紹介する動画とグランドデザインを紹介する動画の2種類を作ることになりました。また、グランドデザインを周知するのであれば、多くの町民に参画していただくために認知度を上げることも重要だという議論になりました。</p> <p>第8回の運営委員会では、具体的な動画企画について委員からサンプル動画を紹介しながら議論を行いました。グランドデザイン案及び各プロジェクトについては、後ほど浜辺委員から話があるため省略します。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。次に、グランドデザイン案の内容について、海業推進室の浜辺から説明します。よろしくお願ひします。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>資料に沿って説明します。</p> <p>愛南町海業グランドデザインについて、スピンオフの会議も含めて15回の議論を重ねながらブラッシュアップしてきました。前回の海業推進会議で骨子案を示し、コンセプトとしては推進会議全員から町民に向けたメッセージを込めて作っていくこと、構成としては皆さんに伝わりやすい言葉でキャッチーなものにしていくことを案として提示しました。</p> <p>その後、各プロジェクトに盛り込める部分は盛り込み作成したものがグランドデザイン案です。スローガンの案を出していただき、それらを事務局で推こうして仕上げたものが1ページ目のグランドデザインです。非常に皆様の想いが込められたものになったと考えています。伝えていくべきことは、衰退や過疎という現実をしっかりと直視し、目を背けないようにすることです。さらに、当たり前の日常というものが今後失われていくという危機感を持って取り組むことを1ページ目右側のエッセイで表現しました。「若者が戻らず過疎化が進む町、そんな故郷・愛南町を誇りに思っているだろうか。」と投げかけています。</p> <p>次の段落では、街の魅力、食や自然等の内容が書かれていま</p>

発言者	発言内容
大野委員	<p>す。それに加えて人のつながりや人財という魅力や地域資源をどのように活用していくかを表現しています。この魅力や地域資源というのは今から新たに生み出していくものではありません。皆さんが今まで築いてきた歴史の積み重ねの上にあるものだとことをしっかりと理解した上で進めていく必要があることを表現しています。</p> <p>その次の段落では、今を生きる私たちが過去から未来につないでいく主役であり当事者であることを示しています。</p> <p>最後の段落は、「海業でこのようなことを行い、このような町にしていきたいと思います。」という思いを込めました。これを委員から町民全員に向けて発信し、海業を盛り上げていくという資料にしています。このような形で皆さんを巻き込んでいくことと動画でPRしていくことを、これから進めていきたいと考えています。</p> <p>2ページ目は、どんなプロジェクトをどこで行うのかを示しています。五つのプロジェクトを載せてありますが、これで完成ではありません。これを更に追加し、更新し、盛り込んでいくものになります。どのようなプロジェクトがあるのかを3ページ以降に示しています。3ページ以降は事務局だけではなく委員に考えていただいたものです。</p> <p>まず、「愛南海業コンシェルジュUMIDASプロジェクト」について大野委員から御説明いただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>3ページの「愛南海業コンシェルジュUMIDASプロジェクト」について説明します。</p> <p>まず、本事業の目的は愛南町全体でワクワクする未来を共創し続ける仕組みを生み出すこととしています。コンシェルジュは、「案内人」、「説明する人」という意味ですが、町全体を巻き込んでいくためには非常に重要な言葉だと考えています。</p> <p>資料の右側の図の体制では、海業推進委員会を中心とした地域ビジネス共創チームとしています。本会議や運営委員会を進めていく中で具体的にどう動き出せば良いのかを、様々な団体を参考にして形にしたのがこのプロジェクトです。来訪者に対して愛南の魅力を紹介し、提供する仕組みが求められており、町民に対しても説明や理解が必要な背景があります。海業を活発化させて継続させるための組織体(中間支援組織)が必要と考</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>え、このプロジェクトを考案しました。</p> <p>次に左上の図について説明します。背景には海業推進があり、UMIDASは右側の緑色部分の漁業関係者や行政、観光業者等に対し企画提案や商品開発、人財育成、人材派遣などを行います。一方、左の黄色部分の消費者や加工業者、地域住民等に対しては、サービスの提供や広報活動等を行います。これらを行うことで漁業関係者や行政、観光、宿泊、飲食、その他様々な団体と消費者やサービス、地域住民を結びつけ、共創関係を築き地域資源の価値を最大化するビジネスを展開することを目標とします。</p> <p>この事業では、6つの「生み出す」を創出します。UMIDASのアルファベットを頭文字とし、「U (Umigyo-Teams) : 海業の仲間を生み出す」、「M (Motivation&amp;Money) : モチベーションとお金を生み出す」、「I (Innovation) : イノベーション(アイデア)を生み出す」、「D (Design) : デザインを生み出す」、「A (Amour) : 愛・郷土への誇り(シビックプライド)を生み出す」、「S (Sustainable) : サステナブルな地域ビジネスを生み出す」こととし、地域ビジネスにつなげていきたいと考えています。</p> <p>本事業の手法は、企画を立案し資金を調達して運営し、分配して地域経済循環率を上げていくことが理想的だと考えています。まずは小さなことから一つずつ行いたいと考えています。どのような部分に課題があるのかを見つけるため、運営委員会やスピンオフ会議等で忌憚のない意見を出し合うところから始め、一つ一つ事業を展開していきたいと考えています。</p> <p>ありがとうございます。補足ですが、資料の右下※の部分に中間支援とあります。これは、ツアー企画の現地調整や困りごとを解決しサポートするコンサルのようなものを事業として想定しています。さらに、組織単体での事業も実施していくことも考えています。大野委員だけではなく皆さんでやりたいと考えています。また、町内関係団体からの協力資源、「ヒト、モノ、カネ」の支援も得つつ外部所得の獲得を図る構想を考えています。</p> <p>次に、「人が繋がる、海から始める。インバウンド! A I N A N ツアー生成プロジェクト」について、高橋委員から御説明いただきます。よろしく申し上げます。</p>

発言者	発言内容
高橋委員	<p>4ページの「人が繋がる、海から始める。インバウンド！A I N A N ツアー生成プロジェクト」について説明します。</p> <p>まず、本事業の目的は海外からの旅行先として愛南町を選んでもらうようにすることです。その中には、町内の受入れ態勢の構築や関係者の輪の成長、地元の経済成長を含めて考えています。</p> <p>次に、内容は町外旅行者、商工観光課及び西海観光船の3者で、愛南町を「穴場の場所」と思える認知や環境づくりを実施します。</p> <p>中期的な目標は、宿泊事業者や陸上ガイド等今までになかった事業者間の連携を作ることです。自分の店舗だけではなく隣の店舗とも連携していき、徐々に連携の輪をつなげていきたいと考えています。これを達成するための短期的な目標として、海外の人が愛南町には良いものがあると認識できる価値のあるツアーを生成していくことを考えています。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございました。次に、「愛南町盛旬満喫スタンプラリープロジェクト」について、大野委員から御説明いただきます。よろしく申し上げます。</p>
大野委員	<p>5ページの「愛南町盛旬満喫スタンプラリープロジェクト」について説明します。</p> <p>本事業の目的は、びやびやもん「盛旬満喫メニュー」を1万食提供し、1万人に感動を与えることとしています。このスタンプラリープロジェクトは既に2回実施しており、今回で3回目となります。</p> <p>今回は、愛南町内の様々な店舗や観光地、観光施設に加え、宿泊施設をスタンプラリーの対象としました。スタンプを貯めるほど高額景品が当選する仕組みにしているため、愛南町の魅力を紹介しつつ、観光客や地元住民自身に愛南町を満喫するルートを設定してもらうことでより長い滞在と再訪を促す企画です。</p> <p>また、本事業では町内の観光動線のデータを取得することが可能なほか、当選景品は全て特産品を買い付けてプレゼントしますので、単にスタンプに協力してもらうだけではなく様々な方々に御協力いただくことで町内に一体感が生まれる企画となっています。</p>

発言者	発言内容
深堀委員	<p>本事業は、愛南町の観光振興イベントの一環なので企画をと  おす必要がありますが、企画がとおった場合、6月1日から12  月末までの期間にスタンプラリーを実施します。</p> <p>主催は愛南びやびや広め隊が行います。隊長の深堀委員から  一言お願いします。</p> <p>昨年は5千食を目標にしましたが、最終的に1万食と大変好  評をいただきました。先ほど町長も言われたように、今年  は愛南町合併20周年になります。今回は規模を更に拡大し、  宿泊施設も絡めて多くの人に愛南町を満喫していただきたい  という思いで開催したいと考えています。おいしいものを食  べたいという人間の本能は非常に強く、毎年びやびやカツオ  については県外から多くの方が食べに来られます。また、  媛スマやその他様々な愛南町の特産品も多くの方が食  べに来られます。更に多くの人に愛南町を満喫していただ  きたいのでどうぞよろしくお願  いします。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございました。次に、6ページの「愛南町ブルー  カーボンプロジェクト」について説明します。</p> <p>この事業の目的は、町内沿岸域で衰退している藻場の回復  を図ることです。</p> <p>こちらは二つプロジェクトがあります。一つ目が「ユニッ  コリーの生産、販売事業」です。目的は、藻場の衰退の要  因の一つであるガンガゼウニを適正密度に保つこと  です。現在海業推進室で実施していますが、徐々に事業  化し独立させていくことを一つの目標としていま  す。現在、外泊と船越の湾内に設置して  いるいかだに吊るして生産しており話題性は非常に大  きい事業です。生産量があまり増やせないといった課  題等に向き合いつつ、どのように解消していくの  かも含めて来年度以降も検討していき  たいと考えています。</p> <p>二つ目が「未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町～  幹縄筏が生み出すブルーカーボンクレジット～」  です。前回の会議でもお知らせしまし  たが、家串地区の真珠いかだに繁茂する海  藻が「Jブルークレジット」として認  証されました。こちらは、海は脱炭  素社会に貢献しているということを定  量化し、それを現金化する仕組み  です。</p> <p>これら二つの事業は、どちらも海の中  に炭素を固定すること</p>

発言者	発言内容
	<p>で地球温暖化の防止に貢献していこうとするものであり、これを「愛南町ブルーカーボンプロジェクト」として立ち上げていきたいと考えています。今回家串湾のみで認証されましたが、同じような取組をしている由良半島沿岸域にどんどん拡大していきたいと考えています。</p> <p>今回家串湾で認証されたことについて東京で記者会見があり、そこに投稿するビデオを作成しましたので御覧ください。</p> <p>2週間ほどで作成した動画ではありますが、こちらでブルーカーボンプロジェクトについてもPRしていきたいと考えています。</p> <p>(投稿ビデオの視聴)</p> <p>次に、7ページの「愛南ぎょしょくツーリズム」プロジェクトについても説明します。</p> <p>これは産学官連携のプロジェクトであり、この活動についても今年で20周年になります。</p> <p>本事業の目的は、全国有数の水産基地になっている愛南町を存分に味わう体験プログラム(ぎょしょくツーリズム)を構築し、サマースクール等の教育旅行や社員研修等を受け入れることで交流人口の増加と海洋人材の育成を図ることとしています。</p> <p>実施主体は、現段階では愛南町ぎょしょく普及推進協議会の事務局である愛南町水産課海業推進室です。</p> <p>事業内容は、カツオの一本釣り疑似体験や本物の魚に触る体験、養殖場の見学、餌やり体験、愛南の魚と環境を知る座学、海の産物を使用した工作体験や調理実習等これまでのぎょしょく教育の活動内容を全て一般の来訪者、特に子供連れの家族や学校単位の修学旅行を対象に受け入れたいと考えています。</p> <p>次に8ページのその他のプロジェクトについて簡単に説明します。</p> <p>まず、「クリーンオーシャンプロジェクト」です。せっかく愛南町に来てくれた人が、町内沿岸部に溜まっているゴミを見て愛南町は汚いというイメージで帰ってしまうのは本末転倒です。そもそも地域を活性化するためには大前提の事業だと考えています。</p> <p>次に「海の勉強合宿」についてです。こちらもアイデア段階ではありますが、海の資源を活用したプロジェクトとして一つ立ち上げたいと考えています。小型船舶免許やダイビングライ</p>

発言者	発言内容
	<p>センス等を取得できることをPRすることで更なる交流人口の増加、来訪者の増加につなげていけるのではないかと考えています。</p> <p>次に、「水産物生産、仲卸、小売、飲食コミュニティの構築」についてです。現在、それぞれの取組は先進的なものもありますが、お互いに何をやっているか情報交換するような場がないという意見がありました。また、水産に限らず異業種連携ということで農林水産や農林福祉、水産福祉のような連携をもう少し取れたら良いという意見もありました。このような連携から生まれる新たな商品や販路の開拓等に取り組むコミュニティを立ち上げたいと考えています。その中で想定される直売所の設置等についても議論を進めていきたいと考えています。</p> <p>資料の右下ですが、これまで4回にわたる全体会を開催した中での議論、意見、アイデア等の一部を紹介しています。</p> <p>三つのカテゴリー、空間、体験、担い手、更にはそれらのベースとなる豊かで美しい環境があり、カテゴリー分けして紹介しています。エコツアーの造成やサマースクールの開講、一次産業を含めた子供の職業や商業体験としてのキッズニア、廃校を活用した宿泊施設や水族館等の整備があります。これらは、子供たちのアンケートや絵画コンテストの最優秀賞案です。</p> <p>また、愛南町の資料を保存し展示する海の博物館の整備や廃棄水産物を肥料化する等の再資源化施設の整備、着地型観光の構築、事業者のネットワークワーキングの構築、アフターケアの充実等が議論として出てきました。これまで紹介したプロジェクトの中でもこのようなことを考えながら進めていく必要があると考えています。</p> <p>最後に、ベースとなる部分として子供向けの就業機会や雇用の創出、居住環境の整備、更には海ごみのない美しい海の町の実現、何度も来たいと思える町の実現等、これまで議論してきた内容が今回のグランドデザインとなります。</p> <p>最後のページですが、海業推進委員として皆さんの名前を並べています。また、会議発足からグランドデザイン策定までの流れを示しています。海業推進会議や運営委員会、スピンオフ会の前後で振り返りや次回どのようにするかという話をしつつ、具体的な内容については場所や時間を選ばずたくさんの議論を積み重ねることができました。また、記録に残らない会話についても非常に重要なものがありました。このようなことも</p>

発言者	発言内容
	<p>考えると多くの時間が費やされてきたと感じました。これが一つの海業推進会議の宝として、今後も継続したいと考えています。</p> <p>以上の内容をグランドデザインとして作成しました。繰り返しになりますが、まず海業推進委員一同から町民に向けてのメッセージとなることをコンセプトにしています。そのことも踏まえて、皆様からも忌憚のない議論をいただきたいと考えています。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。続いて、PR動画の制作について大野委員から御説明いただきます。よろしく申し上げます。</p>
大野委員	<p>資料に沿って説明します。</p> <p>海業をPRする動画を制作するため、先ほどのグランドデザインのスローガンを全員に読んでいただきます。</p> <p>スローガンは六つに区切り、5班に班分けをして読んでいただく部分をあらかじめ決めました。資料2ページ目に班分けと班ごとのセリフを示しています。また、スローガンの最後「人と自然が紡ぐ私たちの舞台 共にワクワクする愛南町の未来を創り出そう！」は全員で言っていただきます。</p> <p>撮影した映像は、全員の声をつなぎ合わせることで、皆で力を合わせ団結して行っていることを演出したいと考えています。</p> <p>撮影方法は、担当のスローガン部分を各々の職場にて自撮りしてください。資料3ページ目にデータの送付方法を記載していますので、各自撮影ができれば送付してください。この方法で撮影ができない方もいますので、会議終了後に隣のスタジオでも収録します。御協力よろしく申し上げます。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。ここまでで質問等がありましたらお受けします。</p>
擬地委員	<p>資料にある、グランドデザインプレゼン資料アニメーション展開とはどれに当たりますか。</p>
浜辺委員	<p>素案ですが紹介します。映像の準備に時間がかかるため、休憩後に披露します。</p>

発言者	発言内容
<p>濱座長</p>	<p>(休憩)</p> <p>それでは議事を再開します。 次第4の今後のスケジュールについての前に、先ほど御質問のあった映像を御披露します。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>(映像の視聴)</p> <p>こちらは、第4回のグランドデザインの骨子案の内容をアニメーション化したものですので、内容が古く音もない映像のみの状態です。</p>
<p>凝地委員</p>	<p>映像を作成された方には申し訳ないですが、面白くありません。正直見ようとは思わないです。動画の中でももう少し遊んだ方が良いと思います。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。このほかにこれまでの議論で質問等がありましたらお受けします。</p>
<p>大石委員</p>	<p>「愛南町ブルーカーボンプロジェクト」について質問があります。この仕組みについては理解できますが、私が住んでいる魚神山の真珠母貝養殖業者は、養殖いかだに海藻が繁茂しない努力をしています。1年に一度は、いかだを干して藻を除去します。これは、家串地区以外の地区でも同じ状況だと考えています。一方、家串地区は、藻塩を作るためにわざと海藻を生やしてきた経緯があります。先ほどブルーカーボンプロジェクトを由良半島全域に拡大させていきたいという説明がありましたが、他地区でも同じように事業を展開できるのでしょうか。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>家串地区で藻塩が作られることは認識していますが、家串地区にある藻全量が藻塩になるわけではなく、その大部分は藻捨て場に捨てられると考えています。Jブルークレジットの対象となるのは、藻捨て場に捨てられた藻です。いずれの地区も作業で藻を除去する行為は発生していると思いますので、その部分を評価するプロジェクトだと考えています。このプロジェクトのために無理に藻を生やしましょうというものではないと考</p>

発言者	発言内容
	<p>えています。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。次に、今後のスケジュールについて浜辺から説明します。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>資料に沿って説明します。</p> <p>今回グランドデザイン案を示しましたが、今回の議論を踏まえ関係者への説明を実施します。</p> <p>その後3月18日(月曜日)に運営委員会を開催し、3月22日(金曜日)に最終版のグランドデザインを公表していく予定です。</p> <p>以上がグランドデザインに関するスケジュールです。次に、田中(純)委員から第2回情報交換会の案内について御説明いただきます。</p>
<p>田中(純)委員</p>	<p>海業推進委員の情報交換会を3月30日(土曜日)正午から私の自宅で開催したいと考えています。今回は、アイデアがある方にプレゼンをしていただきながら意見交換をしたいと考えていますので是非御参加ください。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>ありがとうございました。今後のスケジュールに戻ります。今後の海業推進会議は、運営委員会で日程を調整お知らせします。今年度の目標はグランドデザインの策定でしたが、策定して終わりということではありません。これを更に具体化し、プロジェクトを進めて町を変えていくことが重要だと考えています。引き続き御参画をお願いします。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。ここまでで質問等があればお受けします。</p>
<p>大野委員</p>	<p>先ほど説明した海業PR動画の制作ですが、プレスリリースまでに完成させたいと考えています。それまでにどのような構成にするのかは皆様にも意見をいただきたいと考えています。まずは、この後撮影をしますので、御協力をお願いします。</p>
<p>濱座長</p>	<p>次に、海業事業計画について株式会社価値総合研究所から説明していただきます。よろしくをお願いします。</p>

発言者	発言内容
<p>嶋田氏</p>	<p>価値総合研究所の嶋田です。本日は海業事業計画書について資料に沿って説明します。</p> <p>この資料は、今年度議論された海業グランドデザインの内容を水産庁の報告様式に取りまとめたものです。</p> <p>1 ページから 10 ページまでは、協議会のメンバー、対象地域と対象漁港、地区の概要を記載しています。地区の概要では愛南町の地勢や人口、産業構造についてまとめています。</p> <p>11 ページから 16 ページまでは、海業の概要について記載しています。今年度愛南町がどのような形で海業を推進するかを、目的や実施する事業、事業の効果等についてまとめています。</p> <p>17 ページから 19 ページまでは、グランドデザインで実施する事業の経済効果を算定したものです。先ほどの発表で五つの事業について紹介がありましたが、その中で経済効果の算出が可能な「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINAN ツアー生成プロジェクト」及び「愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト」について記載しています。</p> <p>20 ページは、海業の体制、人員計画、関係者の役割分担について、21 ページは、実施に向けた手続き、調整事項について、22 ページは全体の取りまとめとして今後に向けたタイムスケジュール案を記載しています。以上の構成で公表したいと考えています。</p> <p>次に、各プロジェクトの経済効果をどのように算出するかを説明します。これは、地域経済波及効果分析ツールを使用します。お手元の資料「海業版地域経済波及効果分析ツールの構築」に沿って説明します。</p> <p>これは、海業を行うことでどの程度地域に対して経済効果が生まれるのか算出可能なツールです。ここでの地域に対する経済効果は、地域住民の雇用の向上と雇用機会の創出が考えられます。資料では、これら二つの効果を「地域に帰着する経済効果」と表現しています。例えば、海業で特産品を生産したら地域住民の所得が3万円、地域の雇用者の所得が1万円上がったので雇用が増えた、といった経済効果が可視化できます。</p> <p>弊社がこれまでお話ししたとおり、事業を実施するにしてもそのための原料を地域外から調達すれば所得がほかの地域に流れるので、地域に帰着する経済効果も小さくなります。1 ページ目の図の「ビジネススキームの違い」と表記している部分は</p>

発言者	発言内容
	<p>これらのことを意味しています。そのため、なるべく地域内で原料を調達し自分たちの強みを生かした事業の構築が重要です。</p> <p>「令和5年度海業事業計画書」の17ページでグランドデザインの事業である「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINANツアー生成プロジェクト」を例に説明します。まず、年間の利用人数と利用料を設定します。今回利用人数は600人、利用料は1回10万円と仮定しています。次に、事業スキームとして資材代や電力費等の項目を資料のとおり入力し、調達計画や資本金の地域出資の割合と地域内雇用者割合を設定します。以上を設定すると経済波及効果を算出できます。その結果、全産業の経済波及効果(生産誘発額)は約5,700万円となります。また、仮に域内調達率を100%とした場合、その額は約1億1,300万円となります。</p> <p>次に、18ページの雇用者所得誘発額の算出結果について説明します。こちらについても約3300万円雇用者の所得が上がる試算をしています。以上が分析ツールの概要です。このツールを利用し、経済効果を算出し事業計画書に記載しています。なお、こちらのツールの公開日は、現時点では未定となっております今後の水産庁との協議で決定される見込みです。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。ここまでで質問等があればお受けします。</p>
浜辺委員	<p>今御紹介いただいた「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINANツアー生成プロジェクト」及び「愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト」の海業事業計画書におけるインプットは、価値総研さんが独自に検討して入力された値ですので御了承ください。その上で、この分析ツールは、例えば年間100人で事業を考えていたが200人で計算しないと事業が回らない、といった事業性を分析するのに非常に有効だと考えています。今後、できれば活用していきたいのですが、すぐに公表できるものになるのかまだまだ改修しなければいけないものか現時点の状況を教えてください。</p>
後藤委員	<p>ツールへの入力ですが、海業推進室が取りまとめて入力するのか、海業関連の動きであれば各々で入力し、経済波及効果に</p>

発言者	発言内容
鴨志田氏	<p>使用するデータとしていくのかわかりません。また、どの時期からこれを使用できるのかを教えてください。</p> <p>このツールは基本的に企業でいう損益計算書のデータがあれば入力できます。もしそのような事業構造が明確になっていればその単位で入力できます。事業の全体像が見えていない段階であれば、売上や原料の仕入れがどの程度かを仮定して入力することも可能です。また、ある程度似た事業をまとめて大きな業種単位で入力することも可能です。今回はツールという形で説明しましたが、経済波及効果を出すための考え方を紹介したと捉えてください。経済波及効果をどの単位でどのようなくくりで出したいかによって自由に設定していただいて良いと考えています。</p>
浜辺委員	<p>ツールに入力できる項目はどのような項目がありますか。</p>
鴨志田氏	<p>基本的に損益計算書の項目が入力可能です。</p>
浜辺委員	<p>今回御紹介いただいたツールは事業を起こすかを検討する際の指標になると期待しています。是非現場で自由に使用できるような形でツールを作成していただきたいです。</p>
鴨志田氏	<p>このツールは愛南町に限らず様々な地域で広く活用していただきたいと考えています。そのためにどのようにしていくのかは、水産庁とも相談しながら実用化に向けた準備を進めていきます。何か要望等あればお問い合わせください。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。最後にその他連絡事項に移ります。今回グランドデザイン案をお示ししましたが、第1回海業推進会議以来の参加となった李委員に御意見をいただきます。よろしく申し上げます。</p>
李委員	<p>私は第1回会合以来の参加になりましたが、参加できていない間にグランドデザインが具体化されてきていると感じました。また、グランドデザインの中にインバウンド客を集客するプロジェクトがありましたが、是非翻訳、通訳も意識していただきたいと考えています。英語等で親切に案内することで愛南</p>

発言者	発言内容
	<p>町の魅力を更に多くの方に伝えることができると考えています。また、現在開催されている北米シーフードエキスポーに愛南漁協が出店したほか、イギリスを本部とする「国際一本釣り財団」というカツオ・マグロ漁業を保護する団体に愛南漁協が加入することとなりました。このような情報も発信していく上で是非外国語を意識して進めていくべきだと考えています。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。最後に前田委員から会議の総評をいただきます。よろしくお願ひします。</p>
<p>前田委員</p>	<p>当初は雲をつかむような話から始まりましたが、会議を重ねていくことで目標が明確になってきたのではないかと感じています。また、その目標に向けてどう進むのかが今後のテーマになるのではないかと考えています。先ほど経済波及効果の話題がありましたが、その前に下支えをする環境づくりも重要だと考えています。その部分も含めて投資効果をどう見るのか等の視点も考えていくことで、より現実的な判断ができると考えています。また、今後様々な人達がコラボレーションし、良いものにする取組ができるかが重要です。今回そのような意味での目標設定ができたので、これを成功させるために動くことがこれから求められると考えています。そのために設定した目標に対する共感度を高めていけたら良いと感じました。以上です。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。最後にコメント等ありましたらお受けします。</p>
<p>田中（純）委員</p>	<p>繰り返しになりますが、今度の情報交換会に是非御参加ください。プレゼンの時間も考えています。資料を用意していただくなくても口頭でも大丈夫です。プロジェクターも用意できますので、各々がどのようなことを考えているのかを共有したいと考えています。</p>
<p>濱座長</p>	<p>皆様活発な御議論ありがとうございました。今後、グランドデザインを公表しますが、これは通過点にすぎず今後も皆様のお力添えが必要になります。次のステージに向けて引き続きよろしくお願ひします。最後に清水から連絡事項をお伝えします。</p>

発言者	発言内容
清水室長補佐	<p>5点お伝えさせていただきます。1点目、本グランドデザイン案については3月22日(金曜日)に最終版を公表します。今後の加筆、修正について御了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>2点目、次回の海業推進会議は4月以降に開催します。3月18日(月曜日)10時から予定する運営委員会にてグランドデザインの最終案と合わせて議論します。3点目、4月以降の所属に異動等が判明している方、その可能性がある方は、事務局までお知らせください。委嘱状の再発行の手続をします。4点目、アンケートについては、可能な限り本日中に御記入の上事務局まで御提出ください。5点目、グランドデザインの動画について、会議終了後に試し撮りをしますので、案内があるまでは席でお待ちください。本日は御参加いただき誠にありがとうございました。</p>